

第 1167 回放送分『肺がん』2 回目

ゲスト：田中 謙太郎ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「肺がん」をテーマにお送りいたします。
お話は、鹿児島県医師会 田中 謙太郎（たなか けんたろう）ドクターです。
田中さん、よろしくお願いいたします。

田中謙太郎Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、肺がんはがんの中で罹患者数が第 2 位であり、
亡くなる方が一番多いがんであるということをお聞きしました。
男性だと喫煙している方が多いですが、
女性は喫煙していない方も肺がんになる人が増えているということ。
そして、男女ともに年に 1 回のレントゲンを撮ることで
早期発見、早期治療につなげることがとても大切であるというお話でした。
今日は何についてお話しいただけますか？

田中謙太郎Dr.

今日は検査についてお伝えいたします。
まずは先週もお伝えしたとおり、検診などでは多くの場合レントゲンを撮ります。
そこで肺がんが疑われた場合には、CT 検査が行われます。
もしも頭部にも症状があれば、MRI も撮ります。

二見いすず

頭にも症状が出る場合があるんですね。
そういえば先週、腰が痛むと思っていたら肺がんだったというケースもあるということでしたが、これも同様に頭の方に転移しているということなののでしょうか？

田中謙太郎Dr.

おっしゃるとおりです。脳に転移するがんの半分は肺がんといわれています。

二見いすず

そうなんですね。

田中謙太郎Dr.

話を検査に戻しますが、CT で異常が見つかった場合は、
がんが疑われる部位から細胞や組織を取る検査を行います。

二見いすず

さらに検査が必要なんですね。画像だけでは肺がんと確定できないのでしょうか？

田中謙太郎Dr.

はい。気管支内視鏡検査で組織を取り、確定診断となります。

この検査は喉に局所麻酔をして行います。

まれに気管支内視鏡検査でも診断が見つからない場合があります、

その場合は CT を使い、CT で場所を確認しながら針を指して、組織を取ります

二見いすず

いずれにせよ、組織を取ることで確定診断となるんですね。

田中謙太郎Dr.

はい。組織を取ったら病理医という専門の先生が顕微鏡で見て診断します。この診断がとても大事になります。病理の結果は1週間くらいかかります。

がんと診断されたら、肺がんが転移しているかどうかの検査で、

進行の程度を調べる時は PET-CT 検査を行います。

二見いすず

さまざまな検査を行う必要があることが分かりました。

先週もお聞きしましたが、咳や息切れ、血が混ざる痰などが出たら、

すぐに病院を受診したほうがいいですし、

繰り返しになりますが、年に1度の定期検診は大切ということですね。

田中謙太郎Dr.

はい。早期だと症状が見られないことも多く、

進行して初めて症状が出ることもあります。

ご自分では気付けないからこそ、検診を忘れないようにしていただきたいです。

二見いすず

よく分かりました。

今月は、「肺がん」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 田中謙太郎ドクターでした。

田中さん、ありがとうございました。

田中謙太郎Dr.

ありがとうございました。